和唐珎解　全

208
22

帝國圖書館藏

ガラス使用

208
特別
22

ガラス使用

和(ホウ)唐(ダン)珎(チン)解(ケイ)序(ジヨイ)

素(ソウ)聞(ウエン)崎(キイ)乃(ナイ)繁(ワン)華(ハア)之(ツウ)地(デイ)
（かねてなかさきハはんじやうなところて すぐれてよいところ）

景(キン)勝(シン)之(ツウ)郷(ヒヤン)也(エー)就(ツエウ)中(チヨン)丸(ツー)
（とけさま ろゝ なかんづくまる）

山(シヤン)寄(キイ)合(キヤ°ウ)之(ツウ)間(チン)名(ニン)妓(ギイ)多(トウ)
（やまよりあいまち ハ よいぢよらう おゝい）

少而粧扮好了容貨（シヤ°ウルヽ チヤン バン ハ°ウ リヤ°ウ ケ ホウ）（くいちゆうあざもよいためもそのくせもの）

比他三估一估也我（ピイ ラア サン クウ イ クウ ヱヽ ゴウ）（ほかもあのくよりこうやすひげよござる われ）

們久思一遊焉万里（モン キウ スウ イ ユウ エン ワン リイ）（らわれとかまはんであそんでもそうござれど こちらのところ）

行路無奈今般唐来（ヒン ロウ ウヽ ナイ キン バン トン ライ）（みちをさとござらしねところ このたび とうらい）

三和作和唐珍解戯（サン ホウ ツヲ ホウ トン チン ケイ ヒイ）（さんわ さくわとうちんけといふさくしとつくられさ）

文是私的大造化閑（ウエン ズウ シイ テ ダア ツア°ウ ハア イン）（ふみ それこそわれらがおかげや こせしくわくへし）

一閑歡一歡未楽館（イ イン ハン イ ハン チユイ ロ クアン）（ミてうれしかりひさしくミてうれしかり あけ らくかん）

主人序（シユイ ジン ジヨイ）（あるじ じん おもて）

ガラス使用

序

夫支那の地よりハ漢に遊女ありといひ
天竺の貝多羅ハ街賣女色とかきのせし
又日本の二ぢやうらハ床柱にもよりかゝる跡
海道にハ青傘に萌黄さらずに紐といふ出合
のいろ究みえたりと天神七代五代集に地色
ありをかゝず、まして人の代となりて伊勢
源氏の物語にも指切髪切のまでちらく二条
后ころ紫におゐらんの意気地あるとハ見へ今や
京の女郎に江戸のはりをもたせ長崎の
衣裳をきせて大坂の揚屋で拵子自由
自在の楽を極る時にあたつて和漢の人に

ガラス使用

大一座睦月のまん丸山をむすび
卯の四角な文字を唐来参和といふ中位
形なる男ありて申る贅ハかきねの外あるごとく
さかり瓢箪ぐ餘を鈴さて大あたりとハ惟ある
招く我等語人みなもの形らし

四方山人

和唐珍解

唐来参和著

雲想衣裳花想容と清平調の詞乃美
花顔とて不如容人美くて不如花美あれハ
人々あれを美れ顔も餘所ならぬ傾城の浮名
をながす花色の丸山角とれて和らぐ
國も異國もかはらぬ恋の道芝と喇叭
哨吶吹たてゝそめたの美人旖旎の

ガラス使用

夕れ徒然に通詞話ともお連くらかれ

くるるれ揚家入是者中れ客なからん

大明李蹈天従者ニ向ひて **李蹈天** 你們可回太公 **従者** 領旨 **李**

明朝早些来我在這裏等候快些太丫

不可路上住脚 **通詞和田藤内** 多労多労 **従**

太丫と申くくるかるをよびその **李** 你們等一等 **従** 有何

貴幹 **李** 休要賭銭 **藤** 崑崙奴有些事故

不要太公 **崑崙奴** 領旨 **従** 明日再来迎接くと申

うろくろんぼうひとりのこる **藤** 若者ハ居らんかわひ若く

若者 ハイくどれぞさまござるござる是へ

案内さな江おんなんとえきまよとひぞく

と乱下り志やれる李蹈天ハ **李** 没規矩奴 **藤** コレく

若ひ若萬くそうりろく盃子是れどふ

志さりのご尾の客人すれそのゆうふ志や

ガラス使用

もくハそらとふろ翻身便絆をとくいひ

又撲地絆下とごくいうく天窓を地へおり

さつまおくへなれでがてんせぬよ【若】ホンニそう

でハござりましたさうハ大きな網法【李】得

罪我了我饒不得他（われをとりさらうハおれハゆるすまいハあらうぞ）【崑】苦哉苦哉【藤】請

息怒他的不是了（すてきとあめへられがぶてうわろうでござる）【李】狡猾的人下次再（きつくぬれやくわらさいてハ）

須要小心（ちとつゝしめ）此二【若】つアく二階へあがりなさ

りませ【藤】請上来坐（うへあがりてござらされ）【李】樓中有蜘蛛網（みかいもくものすがけさろう）

【藤】蜘の巣がかけてハありますと持ちあけ

【若】さうハまこと蜘げりりますく皆女

れ好りなされませ【藤】崑崙奴你跟著（くろんぼうおれトつゞれてこい）

我来（さされ）と皆く娼家へのり二かくかるくろんぼうハ供アやへする【藤】李君且上面（せんせいまあおうへ）

坐了（すわりまく）【李】怎敢（すあきさるくら）【若】今晩ハ能みてそいらる

とゆり内しさ【李】初相見（はじめておあいさ）【藤】始めくにのさ

ガラス使用

とかくしやる［若］ハイ是ハありがたう御ざり
升さてトヤても志かし通（つう）じませぬ人が
多よりわしく御うけを［藤］ソリヤアどふで
もいつ其（それ）よりちと存（ぞんじ）る事が有るちよ
おそらくきつくわら抑ふ（トさゝやく）［李］哥哥那（コウコウナアヽ）（あなさどらく）
裡太会（リイキユイ）（ゆめくそ）［藤］有此些事情（ユウスアヽズウズイン）（すこしようありさ）［李］太会了来（アユイリヤウライ）（りんそてこい）（麦肉いらうりく出羔羔こひりひ）
［藤］コレ外（なり）の事でもないがちよつときさ

廛人（とうじん）ハ大明（だいえん）の李蹈天（りとうてん）といふ金持ぢやがわ
いろさの女郎ハ梅檀（せんだん）を出してくれのでそろい
ちいさめへもソレよすしり［若］志かしちとみるさ
ミジラしいね［藤］コレ家（や）夢（が）ふいうらう志やんか
みを出さうせん（ト金をとらせる）［若］コレハ何りがたう
御ざり升さてシテ抑まんさなのハ此君の無り
［藤］新造（しんぞう）さく［若］よふ御ざり升す何るも

方（ふうすん）すまありでれざりほまて**藤**志んのきの

ござぜ（ト茶内ハ社の店へまゐり禿たちとがんめりゐる）**禿**茶さんおおかんし

さん**李**個裡来（コウリイライ）（こゝへこひ）**藤**宮（とく）へとひとさ**禿**ころちやア

いやら小（こさ）味（こ）がりひ**李**没有可怕的事（モウユウハアテツスウ）（とこくいをかあいよ）**藤**

マア側（そぞ）へいつてころや**李**揪住他（ツユウチユイタア）（かれをとらまへん）**禿**ヨ、あるを

ヨて モウ**李**為甚去使不得（ヲイシンキユイスウフツテツ）（なぜゆくぞそうはさせぬ）トぞれつく**禿**アレよし

ておくんなんしいつそ郭をあかさん志まる

李休要囉嗽（ヒウヤウロウソウ）（やかましくいふな）**禿**ヨそ モウうるさんトふりきりにげて行

李休要跑脱（ヒウヤウハウトウ）（にげるなよ）姐妓面前不可告知（ツエイキイメンツエンフツカウカウチイ）（おいらんのまへでそういふなよ）ころひりの酒

さうかを おきてゐる**若**ちとたのびりまし**藤**いろさあ李（リイ）

哥喫一杯（カウキツイツホイ）（とうさんひとつおあがれ）**李**好了（ハウリヤウ）（よろしう）おひろゐの抵女（あ人出まる）**梅槽**ぞまる

もようゐ出あんした**藤**きついれりつさん

ぶね**梅**ナニ おもうまつやア 捨ざんせんろれども

李這箇杯兒奉献娘子（チエヽコウホイルウホンケンニヤンツウ）（このさかづきはおいらんへあげまする）ト此不和漢かうちくず古風のあまりゐるり

ガラス使用

暗号え 李 今日暴始相見（キンジツハウスウスヤンケン）（けふはじめてあふさ） 新 モシぬしがなんとろおゆうせんをそぜ 藤 だうじめてお目にかゝりやさとおいらんへの挨拶（あいさつ）さ 道 さうでもかくのお客（きやく）さまがいはれ叮嚀（ていねい）ではありますす 揃 こちからも何と挨拶お應（ちやうとう）まいらくおくんなんし 藤 せうちく。初接高風不勝欣躍若蒙不鄙棄感謝不盡（ツヲツヱカウフヲンフツシンヒンヨウジヨツモンフツヒイキイカンスヱイフツツイン）（はじめておめもじいたしおうれしくぞんじますかりにもおみすてのうばありがたうござんすよ） 李 這般殷勤折殺俺也（チヱハンイニキンセセガンヤ）（さやうにごいんぎんまでいはれてはおそれいります） 若 なんぼろ唐人（とうじん）とやおらめむづかしいせうかおゝくはござりません 李 敢（カン）（おい）問娘子尊名（ウエンニヤンツウツンミン）（らんのおなはなんといゝやす） 藤 喚作擲檀（ハンツヲチヤクダン）（ぜんしゆんとゞ） 李 青春多少（ツイーシチントウシヤウ）（としはいくつの） 藤 今年二八（キン子ンルツパ）（ことし十六さ） 李 衣裳齊整容貌嫖致生得出塵（イーチヤンツヱイチンヨンマウヒヤウチスヱンテユツチユツチン）（いせうがきれいでかほもうつくしくうまれつきもすぐれ） 藤 當時名妓數一數二（タンズウミンキイソウイソウルウ）（とうじのなをとりので一二とかぞへられ） 李 多虧（トウタイ）（おかげで）得名妓真正多謝得緊（テツミンキイチンチントウスヱイテツキン）（めいぎにあつてまことにかたじけない） 若 恐（おそれ）ながらこのおさちとれんじゆせう 藤 拄客奉敬一杯（チヤンケホンキンイツホイ）（あれがらうへさす）

ガラス使用

哩（リイ）（とさ）【梅】ソレ二葉お粥（かゆ）をとふ屋に【禿】アイ【李】滿灑（マンシヤイ）（まんといふ）一盃（イヽホイ）（そのつけ）【藤】ちろかりはげとさ【新】せんてくおつちの客気（きやく）は酒（さけ）が過（すご）ておざんせうゑ【若】せん比比（ころがいて）出なさる待ました新銘（しんめい）の口客さなれどもかされましさ【藤】こゝ切慶子（きりけいし）ろ比頃（このころ）は寄合（よりあい）町（まち）へ出（で）すのがせうくいくよ【梅】食（めし）あがでもおいお出なんせうね【藤】おさんおん取（とり）ふしあんくり

せん【李】娘子喫烟（ニヤンツウキヱヒ）（たばこをあがれ）【藤】客から女房へはけさしもけりぐてくそれおいらんたばこを呑（のみ）とさ【梅】よすしなんしそんなることを云（いひ）なんそふな【藤】吸口（すいくち）とお取（とつ）て呑（のむ）と役（やく）とさらぜ【梅】ゑんつけなんせんくらよふおざんせ【李】藤内（テンスイ）（とうない）哥哥敬你一盃（カウ〳〵キンニイイホイ）（あんどのみやくさん）【藤】どふも此酒はちと甘（あま）にどふぞその子（こ）アノ供部（べ）屋へいふてくろん

ガラス使用

がりふそふいりく持参（ぢさん）の酒が有るならば
ぶらりと持（もつ）てきや 禿 アイ 若 只（ただ）持ちふ升
でふ不通（ふつう）で出ざりませう 藤 ホこニとう
いんらぐあんれで幕（まく）が無（とふ）らねくいんさら
の那箇四角酒快些将来（ナア、ユウスウキヨウユウシツイースエ、ツヤンニライ）（そこにあるとくりをはやくもつてこい）といふと拿手進（ナアツイン）（もつて）
去（キユイ）（ゆけ）とらら何（みん）とらいらくよとれよ 禿 あく
子（て）がきとれざとん 新 ホ、しナニ持ちふおぢやつ様へ

こりや 禿 持られざつてもおりしくりく
どふもいられません 若 エ、役（やく）まふらねく
唐人（とうじん）も何もいらず様く抑れずらんて立（とろ）
て来（き）よりよ（ト立くら物強くからうか／よりかうてゐかなゝ所） 青柳 茨さん
藤 あんざ 青 たゞ 摘 青柳（あをやぎ）さんおちさん
なんし 青 アイ（トそゞく）あく茨さんとんちが
煮（きゆうじん）へいあぜこさあんせんへ 藤 ム、只（ざ）三桂（くゎい）り

たふされくされども用があるところで
あねへこれによるぞ揃（おいて）しあらしめよ 挴
たばこを呑（のみ）なんし 青 アイ 藤 毛（け）唐人（とうじん）
でもアリヤア毛唐ぐらしがりてこさうよ
のぞかせられ 青 よしなんしきざみ 藤 ハテ
指をりいとひなさんなかあさも八九年も
續（つゞけ）てこうちくに聞（き）さうなげけ出乃
女郎衆（ぢよらうしゆ）の馬（むま）をとりへソレおめへどうよし
うあれも見（み）勘（かん）れ言（こと）葉（ば）を覚（おぼ）へおめへも
唐（とう）音（いん）をおぼへるなどの久（ひさ）しん弥（みし）染（え）て
床（とこ）乃あんさんあも何くびりみて書合（かきあはせ）
とあうりといふのざかりツし一（ひと）とをり
あやア孫へよ 青 ござんろありいせん 藤
ナ二 あつてぬくるりがゐる梅ざアノせんとう

の匂（すみれ）ひとかぎ志やるがさんどのむすけ 青 此毎（つく）詞（ど）めがいらせらへおけバコレかゝ家（うち）さんそうかゝらこ挨ぐらくゝやんあんし

新 アイ 藤 アヽおやまんさく コレ何んまり さうぐせば唐人（とうじん）ゥてれゝくわるから ます桟（さ）頑（がん）がりうひ 青 ナニ唐人よかまゐ ねんご 李 藤哥不可捕口喧嚷得緊（ラ カウ フツ コウ プウ ケウ ヒエン ジヤン テ キン）（とうくろうくさいでござりわかようなれいうひかやまりしん） 藤 請怨請怨（ツイン ジユイ ジン ジユイ）（おやまり〳〵）。ソレみろがいゝまうれゝさ 李 俺的性（カン テ スイン）（おれハきまれ）兒不喜歡鬧動只喜歡閙靜（ルウ フツ ヒイ ハン ナウ トン チツ ヒイ ハン ヒヤ ツイン）（ついてさハがしいのハきらいでしづかなことがすきよ） 新 あんご やまん 藤 てめへらあれさいさ 新 おちとへ子て まけて

藤 サア青揶（めとやゝざ）さん一杯（いつぱい）吞（のみ）ねへ トウ唐人をさし 你（ニイ）（そんぢ）認得他麼（ジン テ タア マア）（あれをどぞんじろ） 李 我竟不認得他（ゴウ キン フツ ジン テ タア）（おれハあれハどれぞらねへ） 藤 呉三桂（ウ サン キイ）（ごさんくいづ）的妾也（テツ ツエ エ）（おてかけさ） 李 敢領尊盃（カン リン ツン ポイ）（ちとおさかづきをいただきん） 青 そんならん挨ん あらあぐかりやきみせらう 掬 あゝあれざ

ガラス使用

まづ御さんへよくあのら事(こと)を聞(きく)とうなん

さぞせし　李　酒(ツユウ)壺(ウ)〱（とくり〱）酒(ツユウ)壺(ウ)〱　藤　在在(ヅワイ〱)（おらうだいおいらう　らよりそんとぬき）

（あの〱して來り　茂内が目を押さへ）　錦州　あのてゝうん(こ)なんし　新　アレサだすんく探(さぐ)くなんきりやアいゝふ　藤　ハテナ是非八張(ずれ)ぞろ忘れねへ　錦　ホヽなんにもあゝぬ事(こと)をしれた。今夜(こんや)ハよくきなんしよね　藤　サア下(おき)に居(いる)か(わ)るへ　錦　ねしやアく

藤　あれハせんど出した李瑞天(りようてん)とふ毛唐(けとう)人(じん)さ　錦　へヱ、（ト唐人にむかひて）モシ押さへつよお聞よかゝりやきんした　李　（獨言）今(キン)日(ジ)天(テン)色(スヱ)好(ハウ)（けふハよいてんきどぞ）　錦　そふぞ是からきんちんも出(いで)なんし

李　阿(ア)阿(ア)酒(ツユウ)醒(スイン)了(リヤウ)些(スヱヽ)（あゝ、よいがちとさめた）　錦　さゆうさ　青　ホヽし錦州(きんしう)さんそりやアまアなんの事ぞへ　錦　なぜへ　藤　押さともあまりがてんがゆかねか

らだまりく笑（きい）てねさがこのハ大（とく）きう

ひざ 錦 マア笑おんしあのもんちがねこと

著（ぞ）ぶとかけいしきう迎白（きんぢう）ぞふて中らいひ

おんさとりきうあてぼりかぷうにぞふぞ儞

出おんしといひしたらアく何らひと

中らいひおんさをかうさ爭うさといひし

ふが違（ちが）ひしたく 藤 三爭（さ）がちがんらそふ

さ 摘 おゝしてねしハおんといひちおんした

のゝ抄ざんさん 藤 ぜんさん庵人がこの

子のこと葉をかうさ紙笑つけねへぞ

獨（ひとりで）ふらんハ能（よく）天氣（てんき）とり何（なん）といふと

どふぞれ出おんしア、碎（さいひ）がさわさといふと

左様（さやう）さおんのるすぞん 抄りうつしん

三十 ホゝいゝし 李 笑甚麼休要咲話我（スヤウジモウヒウヤウスヤウハア、コウ）（なにをわらふおれをわらふのはよすがる） 藤 休要（ヒウヤウ）（よしやすへ）

憁精（ヨサイ）（しやれ）○コレこんなけしハ娘んがいくよめへの

るかくおのれらく此毛（け）むしがあるくな

つる 李 敢問笑甚麼（カンウヱンスヤウシモウ）（そしてなにをわらふのぞ） 藤 此妓好咲得緊（ツウキイハウスヤウテツキン）（このこがおかしい〳〵） 李

新来的在個裡頑要則箇（スインライテツアイコウリイワンヤウツヱコウ）（いまきたところでなぐさみあそびなせ） 青 緣娳（こさんちり）さん

客（こく）ぐゞのそくとさ 錦 アイ 差着酒（おきさり）を 若 サアく

れ園とのんくゑりました 新 ヨヤいる

いるおらくさるんしたねへ 梅 その中

み兵るれハなんざねへ 藤 あちられハ蝶

螈（みり）これが壚（うろうろ）その次（つぎ）のハ蛇（くちなわ） 青 ミさゝれる

ひば（いき）ていゝんうねへ 藤 何おもしろくね

さ 李 硝子透亮了好看（スヤウツウテウリヤウリヤウハウカン）（びいどろがすきとほつてよいことさ） 錦 此酒をマア

吞（のミ）なんさるかゆゑぞうウ 秃 モシアノ此多の𫝑（ぞうり）

あら楼これ〳〵とおのひ〳〵天井（じやう）

のるもあしをまへに女郎へ 青 ナニぞ

かしいおもりやァかなかな底（そこ）でござるかな 李 我喫（ロウキ）

酒出酒鍾（ツユウチユツ ユウチヨン） 藤 酒は呑（のま）ふとちよくを

なしや 禿 アイどふするへ 摘 エヽこの子もぢ

まんてへいのあの引出しにあるから

禿 アイト引出しよりちよくふたつ出し（盃へみりんとさけとのまして） 李 最好且（ツイハウツエ）

請試用一盃香氣妙極（ツイーシンシーイヨン イツホイー ヒヤンキイ ミヤウキツ） 藤 好了（ハウリヤウ） 青 こりや

ちやアーすいんてきいせう 何だから 李 再（サイ）

坐咲談（ツヲ、スヤウ、タニ） 錦 そんなら後（のち）まきこらいく

青 パア〳〵 藤 ぞんるゝとんどの 青 ホヽし

ト多ひあかり出て行（女因へさけをのこそて） 藤 不但香氣好味道絶（フツタン ヒヤンキイ ハウ ウイ タフ ツエツ）

妙（ヒヤツ） 若 けふ酒を女郎衆がのむとむせうに

お客人がかこいく猿（さる）といふ事（こと）でハ

ざりかせねえ 新 おいらハのむめへよ 李 祖（タン）

火来（ホウライ） 藤 それ火（ひ）がきたひとよ 禿 アイ 李 少（シヤウ）

ガラス使用

此拿来不要多（スウナアライフツヤウトウ）ヒイレイヒイレイ 錦 ヲヤ唐でもあの事ハ火いれといひさうねへ

藤 何日本れ言葉を覚えさをしやんよ

いふのさ 若 されいろく火をいけておろ

ふ子供とりにきやて行ら 梅 アヽ言葉を知らんをかうめんさるゝ事ハ、言ふまし

ねへねへ 藤 ナニ あの唐人あじかいさのうし

はじめてきかし鶏の囀でけろく

いつれてもよしねへ

李 俺嘗諧得那（カンチヤンジンテツナア）个娘子（コウニヤンツウ）

藤 錦別さんおめへをぶこさと云がおめへよつくゆるゝ

錦 いへ

藤 ムヽまて此中備前屋へつれていつた時おめへがこゝせふあまりそれぐだらう

梅 ナセあんちんへハ行きあんせんへ

藤 鶏をぬきて

ガラス使用

こふかゝつてゑつゝてみたる拍子(ひやうし)に

まづきのどくぶん落(をち)て挫れうち面(かん)額(がく)

あがつて縮(ちゞ)み縮へ蹇つておうかゆりさ

李ハアクツサメ喫(キツ)糞(フン)了(リヤウ)（くそをくらへ）**新**ヲヤくちやこふ

唐(から)でもほど(をどる)じ事ぢ縮へ**藤**ひとりでま

出るかぎらうはじゞるさ**李**ハアクツ

サメ那(ナツ)箇(コウ)説(セツ)我(コウ)事(スウ)也(ユイ)（それがあれがうんさとへ）**藤**先(せん)刻(こく)をそべでいる

くさめのをくさめもせねへてとふさ

るめのぢ**李**ハアクサメ傷(シヤン)風(フヲン)不(フ)耐(トイ)頑(ワン)（くせとひのさきうへがろい）**藤**是(スウ)（それハ）

不(フツ)好(ハウ)了(リヤウ)（こゝろひ）ト羽織とわつひて李子嘲笑みきせる**李**多(トウ)謝(スヱイ)多(トウ)謝(スヱイ)（かたじけない）○量(リヤン)（ちうど）

尺(チツ)正(チン)有(ユウ)了(リヤウ)分(フン)寸(ツヲン)不(フツ)錯(ツヲ)了(リヤウ)真(チン)正(チン)相(スヤン)像(スヤン)了(リヤウ)（きやくがあるこそんぶんもちがはぬよくみあわさでかるい）**錦**

ヲヤ羽織(とう)を着(き)なんしたかちらかよくふく

さんま似(み)く居(い)なんせて**藤**福(ふく)とハ福輪(りん)王が

事うへのれハ羅(ろう)色(んざ)人(じん)ぢ**李**像(スヤ)不(フツ)像(スヤン)比(ヒイ)一(イツ)（まるでならべ）

ガラス使用

此肴（ヒイカン）藤 どふしたろ今（いま）のおしやべりがきこへるさ

ばふざ 李 娘子休要客套（ニヤンツウ ヒウヤウケタウ）（おいらんきやくしんみゑるみさんな） 藤 モシ 何（なに）さん

君さんはまさてるなどと 摘 ほんのぞ称へ 李

喫此酒麼（キツスヱイツユウマア）（さけハあがりの） 藤 他是淺量（タアヅウツエンリヤン）（あれハげこさ） 李 愛的甚麼東（アイテシンモヅトン）（そしてなにがすきさ）

西（スヱイ） 藤 最愛彈唱（ツイアイタンチヤン）（さみせんやうたなどを） 李 藤哥彈絃（テンコウタンヒエン）（ちよいさみせんとひくなり） 藤 請免（ツインメン）（ごめんだ） 錦

あんざしく 藤 おれは三味せんとひけそ

よ 新 彈（ひき）なんし 錦 コレ 三ツ参ふそこの三絃（さみせん）

とかしや 新 サア ひきなんし 藤 どふもひき

しくひかれへりやうなぞとうね げうと

うりさふしんかの苦辭不脫（シウズウフトウ） 李 又来自負（ユウイツウフ）

了（リヤウ） 摘 モシ いかさね 唐（から）の唄（うた）を彈（ひい）て下さんせ

あんし 藤 おもしろく称く出川のてんぺん

ぞよ（トちやうしを にのらせて）

一更裡天。一更裡天。月照紗窓人也未

眠。被襖兒。寒凍得渾身上腫。我的肝肝

我的心肝。何處貪花。撇下了我。撇下了

我。你在花街上闖。**李**越更感激（いよ／＼ありがたく）**錦**一モ之

おれでもまひり兼ぬ**摘**いろそでかくし

ぬきんざねへ**李**唱得妙端的是聲清韻（うたふところみやうでまことにこゑがよくいんがうる）

美字正腔眞另外好聽（ふしくちどころりくやりそうにくべつのきゝよし）**藤**唐人ひとり

ではあるまいさ**新**それより日本の浄瑠璃をかたって笑をおんし**藤**それでは

まさこの川が沢がまされねへかしてゐる

錦ソリヤアよふ御ざんさアな**藤**おかんなら

祢ふ金つよふ此節何れが浄瑠璃をのぞ

むかしの豊後ふ越して語をそれとろ

ふ川て笑をせう**摘**それハ又とんち

でまけがまつれへきとめへ**新**なんでもマア

ガラス使用

かさんくきうせあんし 藤 何ぬふまいやうる

ム、曦鐙の影照り燭子を云ふ 李 快此唱（おもしろくうたへ）

来 藤 又例すを致して 日月互明懸配天豈偶然（あまてらすつきひのさるのとんこまも）

浮雲有覆失光年幼王毋后堪憐似楚（おのうきくもにおほはれてまさぞろさいのころこやあんくさ）

囚可傷馬永井右馬頭宜明領命因監（そのとらわれといさへくもながいうまのかみあきあつけらる）

わろく美人きこりて 若 モミ、おつきさねかおかゆあされ

侍しさ 藤 呉三桂ゟ 若 さゆうて似ざり

ます 李 那箇来了（それがきたと） 藤 呉三桂 的 王 紕也

来得好（よくきてくれた） 梅 是はさい善その三味せんをとり

とつけや 禿 アイ 錦 ころちやァいつて

きいせう 藤 ナセマア 恐びあせん 餘別ハくる呉い

三桂ハぼくつと歩りえ出で一入 李 我等两人老早到這裏等（われらふたりハとくよりまゐりてせんせいをまち）

候先生先生郎如何纔地来遅了（やゝせんせいハなぜこんなおそくおいでなさる） 呉三桂

飛也似奔将過来了越急越不明白列（とぶごとくにかけてまいりしがいそげばいそぐほどわからぬいつれも）

位早至等久了恐懼不過【摘】今夜ハ能

お出なんした【呉】多福【藤】那廂坐【呉】列位

在這裏我豈敢占上坐さしたへ入【青】今

夜ハーとんだ風が吹ろうよくきなんした

の【呉】僑居冷淡過日如年了【青】それで

ゑなんしたのく大きにそんなるまでな

くれきなんさそめくうるさ座のう【呉】小

生小浮浪之徒不勝戀慕所以特地走

将過来【青】ソリヤアおや合町のするく【呉】俺

曉得你今宵因有些障礙卻来這裡戲

弄我【青】ようしうおんかるすとゆうなんすな

だれも君ハおざんせんね【呉】莫說慌【李】彼

此難辨可否【藤】我自心裏曉得了今夜

差不多好了【呉】信不得【若】今晩ハようふ

ガラス使用

こんどは【呉】怎様久不相見（ツヲニヤンキウブツスヤンケン）（こんどはひさしくあはなんだの）【若】ハイ〳〵ちよつと

マアいつてまゐりませう トたつて行【新】呉い二さん孫来の小人島をよんでおかみさんしたらん【藤】小人嶋とハ【新】イヽヱアノ枕筑の引むしへうつて色ひとかしき【呉】両日内拿来了（イウリヤンシツスイナアライリヤウ）（このふつかのうちにもつてくるよ）【新】まちたましあん

もとふか【呉】不敢說謊請勿生疑（フツカンヤウハンツインホスヱンニイ）（うそはいはぬうたがふな）【禿】おいらハ小人島も何もしらねへ手長嶋ならありてへよ【梅】ナヤ【禿】あらひ所であらそぶひより海ゝ致や何うとさわらふいかしさ【呉】娘（ニヤウ）妓是有件要拒托之事（ギイスウユウキンヤウスヱントツチイスウ）（ことさあそこへことくろあん）【藍】是をあそぞよぶぜ【禿】ア【呉】拿茶来（ナアヅアライ）（ちやをもつてこいとのことじや）【青】おゝ茶をあげや

【呉】温々的好不要大熱（ホヲンホヲンテツハフフツヤウタイゼツ）（ぬるいがよいあつくするな）【藤】ぬるひがいゝとよ【禿】アイ〳〵 トさつそく行かつて（茶をとおもりて）【ヤリ】ハイ 娘かよう

〔藤〕從家孃出甚麼〔宅〕爹さまはこつろちをときとは出あされませんの〔藤〕儂剰ふかましてさ〔呉〕常常壯健〔藤〕おかはりも[illegible]うゝさ〔宅〕ハイありがたふござりまする

〔李〕要與婆婆陪話〔青〕モシそ様みかしふとさ〔宅〕ハイどふぞこれからお目をとうけられてくださりまし（禿茶を／持参り）〔禿〕ハイモシそこへちろりとは茶を持てまゐり度した〔藤〕どれ／＼宴ようこしや〔宅〕御膳はまどろく〔新〕イヽヱ〔宅〕らちのおりねどれゐてせんはゐのくおよハイ後ほど

〔藤〕呉哥一盃喫得大醉也好〔呉〕宿酒未醒請免請免〔李〕要和你化拳〔呉〕這樣事尤好請李哥在對面坐則箇〔禿〕おいらハ

又ようや 李 徒開去休要在個裏纏續（のけ〳〵そこにてじやまするよ）

青 コレおさ茶ふめちつとおとんさがりやな

李 一。五。十。両。七。無（呉 四。九。三。八。六。二）呉 那裏了（どうした〳〵）梅 モシあれ

だろりの目奈れと何のまりちがれ称へじやア

おぜんぜんり 藤 ぜんぜんあ屁（おろち）かしあさ

ねへさ 呉 我不敢當（かれがめでたあるね）李 錯過了氣苦不迭（きそんどてむりんぜんぜんど）

此所へ茶あそあうりく嘉をとめら せく 若 ちよつと挨こと 藤 あれハ

お地へさうしざアあうめへ 呉 衆皆個裡来（えんみこゝへきたり）

若 ござんも何のもさしのげるねへはざりません

ね、李 調理好甚麼東西都好喫（りやうりしてなにてもよくくう）藤 把官（そろうとの）

路當人情没什麼欵待有罪有罪（あのてあいむこゝろいもないがなんのごちそうもなうさてこそおそれいります）呉 半（てん）

東感激（ゆがうもあうがたい）藤 李蹈天葱菜猪兒怎麼様（りしようてんねぎさいのぶたはどうだ）李

是大明了（これはめいはくさいえんど）藤 料理（りやうり）ぐりとろくやめる

よ今いろとタアくシンリヤウとふあうち

でハ日本でいふのと同しますぞ 若

扨これハなりがふござりはせまあしれ

何も何がる擸ハござりませぬがその牛

のなんくけが馳走（ちそう）でおござりはせふる

せでハござりませぬ 藤 いろさ海ち綿れ

新（おさら）しおふざ 呉 牛兒煮了吃更妙燒的（ニウルウチユイリヤウキツケンミヤウシヤウテツ）（うしハさうらうてくうぞめいさの）

滋味不好（ツウウイフハウ）（あじハわるいよ） 藤 失陪請飯（スボイツインハン）（めいさうゆめあがれ） 李 要喫（ヤウキツ）（くうく） 若 鶏の

血（ち）へそのちよくにござりはせまあしの

ハ羊れ油（あぶら）でおざりはます 呉 先生飯桶（スエンスエンハントン）（せんせいめしびつ ひろとべ）

剎些（チンスヱ、）（ちつとのこと） 藤 又来弄舌（ユウライロンセツ）（よくもぐさとりよ） 新 モシ口（くち）のたさみまん

はづつらくわやさてよ 李 講甚麼（キヤンシモナ）（るなとりかり） 新 イエ

ヱサ字まんまが 李 越鎮越生秩也厭了（ヱツ子ツヱツスヱエカウヱ、ヱンリヤウ）（わけれぬくわどそろろあれもこのひげ）

這個髭胡鬚（チヱ、コウフウスヱイ）（みへあさちてよ） 藤 てめへがのどくに手（て）をかけさ

かの髭（ひげ）のるすぞ思（おも）うてゐるやうさ 李

荘(チヤン)客(カツ)吃(キツ)一(イツ)杯(ポイ)如(ジユイ)何(ホウ)（こちらのはいりやうちよのあがらうど）呉 他(タア)是(ズウ)海(ハイ)量(リヤン)（かれハじやうごぢよ）李 喫(キ)了(リヤウ)（さけどのめ）

青 和(なま)めどんそれ酒(さけ)と呑(のみ)なんしとさ 若

ハイ何りがたうござります 李 賞(ツユイ)發(ハ)他(タア)（これこなたへしんぜん）藤

ソレ花(はな)とるござるとさ 若 花なるよくハ何りがたい山(やま)桜(さくら)。売りしこれハなんでござりまして 藤 銀(ぎん)銭(せん)ぢやよおれがかりへおいてきたや

いつでも舎(うち)と云(いう)へてやらう 若 ハイこれハ何りがたふござります 藤 コレく女ごが

例(れい)の通(とを)り三絃(さんげん)をするなぞ 若 ホンニそうでござり床(ゆか)しいことでござる 梅 ヲヤ花かしましいなりござる 皆 （ホンニ。先生あまりちぢざをすら ハヽヽ。ひゆしまたおりようなう申）（めんどしれまるめさるとなさて まとうてんちやくしなあげて）李 什(シ)麼(モ)了(リヤウ)（なんぢやく）禿 ヲヤみ人

なんしはん人(ひと)はいわりど緑なさ(とと)いさらしよ 青 けしかへら緑 若 是(これ)ハとんぞあをぐちし

ガラス使用

たまる（トあ西）李 先生是什麼了（スヱンスヱンズウシモヽリヤウ）（せんせいこれハなんぞ）呉 我也不知（コウヱハフツチイ）（おれもしらぬ）

李 藤内是什麼東西（デンヌイスウシモヽトンスイ）（とうないこれハなんぞ）藤 なんざくとうで鈴すハいかれもそうびれさぞ。日本頭巾（シペンテウキン）（にほんのづきんざ）新 アレ見なんし紐の結び目を口にてくわへて解なんしもるな 若 是ハどうもたまらぬあなべも入り度なってきた

李 好這一頂新頭巾（ハウチヱイテンスインテウキン）（これハいゝかぶりづきんぞ）トいのうゑへかぶりて紐をあごの下でむすぶ 青

ヲヤどふせうのふかぶんなんした 藤 おゝ是もいふらぬハからう目本れ頭巾 どういうかみようなってきさ 若 モシ藤さなおがみすますかへしなさるやうふなんし むゆんてくござりはし 禿 いかそおかしくんて扱いなかんさ 李 這个頭巾甚麼價錢賤則我也要買（ゲコカウテウキンシンモウキヤウツヱンツヱンツヱウカウヱヽヤウマイ）（このづきんハぞんへいくらぞやすくハおれがかいさい）藤 價金三両二（キヤウキンサンリヤンルウ）（きんさんりやうにさんりやうふ）

ガラス使用

分（フン）【李】價錢賤（キヤウツエンツエン）【藤】爲什麼（ヲイシモヲ）【李】奉獻大明皇（ホンケンタアミンワン）

辛【藤】ござらぬひも三年と申しアノふん

どうして買さるゝぜ【若】是れはとんだ事ざ

ミテ何ほどありますす【藤】國へおて帰りて

あちらの大王様へ献上申すとよ【青】

いくらでも【李】我強買了好好說一（ゴウヤンマイリヤウハウハウセツイツ）

声【藤】あれとむりに買といふが瑞生しと

いふのがいやさうにて仕直して頼んだる【李】

怎麼樣准不准（ツエモヤンチユンブチユン）【藤】備細說知他說道現（ホイスエセツツウタアセツタウヘセン）

金賣不賒的（キンマイブツヤエテツ）【李】算還價錢（ソハンハンキヤウツエン）ト云ところより三百文金をかけて

を【呉】好枉費了錢財（ハツコンフイリヤウツエンチヤウ）【藤】サアく若老氏

金ふ、ちなるまいぞ【若】それでも【藤】十二サ

かまふ事ハ御ざらぬマア金をくばさ

まゐらせおいさがらし【若】ハイく【李】買着了（マイチヤリヤウ）

ガラス使用

利市（リイスウ）（ゑんぎ〳〵）【藤】アレいつそよろこぶかふ人とちやみしくせんきご【梅】はんぞ福く【呉】崑崙奴（クンロンヌウ）（くろんぼう）

在那裡来吃酒（サイナアリイライキツツユウ）（ところへきてさけをのまぬか）【藤】いつさるくろんぼうめと家へよんでちと酒とのませてさるをがせうう【青】かんぞ藝がおさんそうく【呉】

他是手藝極多専做幇閑過日（タアズウシウニイキウトヲチユンツヲハンヒエンコウシ）（これはげいのおほいたいこもちとなつてよをおくる）【梅】何のときつのそく【藤】かつりぎがきろくいねぞよ【若】

是（これ）はほんにぞんじませぬよんで舞（まひ）をまはせう【禿】さんちがつんつくきんせうてりと【梅】かゝさざさかしむかしの舞臺（ぶたい）でさせておかしく障子（しやうじ）をあけてみんなん【藤】それがよかろう。おとの三味（さみ）せんをとつてよこしや【新】アイ【李】煎個燭心再明亮些（ツエンコチヨツスインサイミンリヤンスヱイ）（らうそくのしんをきつてあかるくしや）【青】らうそくのしんをきれとさ【若】ハイおつい

らく迄まゐらせう。らうか（まて）崑崙奴 餘外有什麼（イユイワイユウシツモヲ）（ほかにそれぞこさるか）

客人若太拘禮我要辭了不敢太忝（ケツジンヨツメイキユイリイコウヤウツウリヤウフツカンキユイ）（あなたあまりごていねいなれバわたくしハかへりませぬおそれいります）禿 アレ

サそうでハおざんせんよいうそまんう

くろざかしいどりよいさんりまうりまれ

行く 崑 那里那里黑地裏是個難走（ナアリイナアリイヘツテイリイスウコウナンツエウ）（どこぞくらいのところわあるきにくく）禿

一杯みきなあんし。サアあのんあんし（ひとつよ）崑 有（ユウ）（あん）

何事情（ホウズウツイン）（なにごとじや）李 来来喫一杯（ライライキツイツホイ）（さあ〳〵ちやひとつのめ）崑 感激不盡（カンキフツツイン）（ありがたい）藤

ぐつと大きなおちよくでいつせるがい〻

崑六 儘着飲得眞個大海量（ツインチヤインテチンコタアハイリヤン）（みすぶどでものむぞいのしやうごよ）新 きつくかる

まざとさせてまんあんし 若 マア おとでさ

。かまいてらられツレお敵 李 異様好看（イヤンハウカン）（うつくしく）

藤 你做軽捷（ニイツヲキンチエ）（あんしろおはしとをやよ）崑 領旨（リンツウ）（りやうちいたしました）ト此をかまいてのくぬありかうくかる藤内へ

三味せんをひくかんなう 崑六 娘子們這技最有趣請看（ニヤンツウモンチエギツイユウツユイツインカン）（むすめかわらんこれはおもしろいごらんなされ）

（あさ）一看（イツカン）青 せんざんさんまんあんしとさ 梅 アイ

【李】大丁係得緊（タアヽカンキイヱツキン）（おいらはあぶのねであゝりぬ）【呉】有趣得了不得（ユウツユイテツリヤウブツテツ）（おもしろくてとんもあらぬよ）【藤】衆（チヨン）ころ

位請唱采（ヰイツインカツサ）（さるみごとをかしいわ）【呉】【李】妙極了（ミヤウキリヤウ）（やんやく）くくろろんかうへいろくれと　を仕上て又えの所へまわる

【若】あるそとおそれいろうさおではござりま

せぬ目本れ人あでうハ出来ませ

ぬるみではござり油をて【掏】さんちやアあぶ

あくてろくにえんせんころか【新】いろそお

りしろうさぬく【崑】阿阿渡倦（アアヒイキヤ）【藤】多労（トウロウ）

多労（トウロウ）【兎】アヽあんまんし此人ハ鼻の下をそ

ろふでさんちやうよ【藤】あれハ今のかる

りさの□□さ日本ではなどの髭をとる

でるが□□でハ何ぞといふと鼻の下れ

ひげあぞさ【掏】けしからぬ【李】再喫酒（サイキツユウ）（まアさかづけをのめ）

【呉】滿灑（マアニシヤイ）（だんどつけ）【崑】没道理（モタウリイ）（ごもりごく）【李】豪傑勉強（ハウキツメンキヤン）（ぐうたらしろく）【若】せん

さんつるいはではござりまず【呉】使賭氣飲（スウトキイイン）（ひとつきさかずきのんざ）

ガラス使用

了好個海量（リヤウハウコウハイリヤン / めうきれのぢやうごだよ）崑 此等歡喜事難再有了（ツウテンハンヒイスウナンサイユウリヤウ / かやうによろこぶことハめつたにあるまい）

新 アレきさ様へ此人ハ鼻くそをとつて肴（さかな）にさつしやるよ 皆 ホヽヽ 藤 おのさけとのんだら又ぢどりをぢどらせう 青 どんなぢどりでおざんすへ 藤 此頃（このごろ）日本（こうち）の踊（をどり）をぢぶんてこんといふがそれより名いろそこれが好（すき）てなかなかぢやぢどりが

よろうとぢりんつてみしもまもこそ（その）まて みせて文句（もんく）ぢろりこゝちの名（とな）あらそひ（あらそ）てあくこゑてよ 猫 こさいのんだら 藤 おそしせてみんせう 崑 崑崙奴来做戲文（ツンロンヌウライツヨヽヒイウエン / くろんぼがおどりをおどくれ） 崑 領旨（リンツウ / うけたまはりました）トまい立めくる 李 什麼了（シヨリヤウ / なんさ） 藤 他是一味裡用（タアヽスウイツウイリイヨン / これはおもしろいせいをしらしく） 心學日本小曲（スイーンヒヨツシヘンスヤウキヨツ / あらうごくにつぽんのかとりさ） 呉 好了好了。（ハウリヤウハウリヤウ / よいよいよく）ころんおろん立下りて かくる者町い三味せんをひく 崑 いきんのきさきのそのきのさ海

へ。ぢよんさ海んのそのきのさなよ　藤　小曲差（シヤウキヨクツア）、

了。雪の柳のその樹のさなハ　如則唱（シユイスウチヤン）　崑　い

きみさなさきのそのきみさなハ。如此也不差麽（シユイツウエイブツアモウ）

藤　兀自差了（ゴツヅウツアリヤウ／かんじんちがい）　李　大醉酩酊舌頭也不昔（タアツイテインテイセツテウエイブツケン／おほきによてしたもまはらぬ）

專且罷休了（チエンツエハアヒウリヤウ／まづまづやめよ）　呉　使得了（スウテリヤウ／よろしからう）　青　モニ　いのりやア

ちゆうよおどりといふもちやア　おせん

せんり　藤　暹羅（せんろ）、らう郎よ　耳波邪（はや）ちや

むろあぐいふ蛮が乱（らい）してある其（その）ら

出さおどりどかしかおちやおどりとも

いふ又ちゆむろ踊（かとう）といふべきことは諸人（もろひと）がいひ

おやまんてちゆうおどりといふのさ

新　モニ何の人の背中（せなか）れがぱちくし白（しろ）ひ

ハあんぐおざんさん　藤　アリヤア今夜（こんや）寒（さう）

ととろをろうでごふんで気をおろして

ガラス使用

逗さのさ 揄 ゐんみろへだろうしい 崑 あ阿

阿爛醉如泥請免請免 ト足をあげ出させ拍子に雛子がころぶ 藤 これハきつうかんぞふく ゆくと 若 ハイ〳〵

李 崑崙奴可惡 崑 有罪有罪請免請免

呉六 初始相會不淂無禮須要小心些 崑 請恕〻〻 若 サア〳〵雜巾 李 不要拭 ト雜巾と引さろう鼻紙を出してふかせる。有趣綿布 藤 為什麽 李 要做

盛烟袋 青 ヲヤあれとたばと入をわたさんとと さ 揄 ざふして稀く 藤 太ゆさおそいろでね ゆせるのぞろう 崑 這个雛妓十分嫖致

忍耐不往 ト禿ようしろ 禿 子てモウ〳〵人ハい やうきいよるさるせんかよ 藤 手をめくまはれさ せ 禿 さうり稀へ 崑 吃驚了扭轉身来不要腦不要腦 禿 アレきついつらい脊中ゟ亂

ガラス使用

が居るのか【藤】どれ出して見せや【禿】ヲ、ろまてむろてくまぐさるでおざんすて【掩】モウ目（め）があのさら【呉】什麼了（シモヲリヤウ）（なへざく）【青】猫づらの子でおざんすて【李】請一看（ツインイツカン）（みてやく）【藤】みんせろとよ【禿】ヱつちやアツや【掩】お目ふりけやが【禿】アイ【新】それみげしさ【藤】どうらぶ【若】たしかこゝらあろうく【崑】鼠兒在這裡（チユイルウサイーチエイリイ）（ねずみこれにゐるよく）ト鼠をつかまへそのあたり猫をつけてくらてちまふ

【掩】ヲヤ【呉】休做沒良心的事（ヒウツヲニモツリヤンシンテスウ）（むじひなことをするなよう）【崑】美味（ムイ）（むまい）〱〱【新】けしからぬ猫人にとらまへさせよ【若】おまへさんさるでおざりませて【禿】ヱ、（モウ）みくらいんぞせわうく人がかゝらんげんてらつて猫（ねこ）くゆとト鬼愛（よろる）【藤】おかしなおはなしこんどおれがいゝのをおてさてせうりよ【李】体物事動不動要凝呆（スヘニウヒツスウトウフツトウヤウツウカイ）（あらゆるものをみなけんかはわけとつき）【崑】ゲエ〱〱

【若】これハどふくさ〳〵さうでござります

【藤】マア廊下(らうか)へつれていくがいゝ【青】せなかをさすらんせんゑ（若衆せなかをたゝくと / 鼠の首玉と猫を吐出して）

【呉】嘔吐(ヱウトウ)（こまりのこせら）【李】是醒酲得緊(スウシツチヨツテエツキン)（これハさてむかつく）【若】くびしめなと猫をのどへひつかけさうでござります

【崑】硬礑咬不碎(ヘニツヱニヤウフツスイ)（かたくてかみこなされあんぶ）【新】そんぢやア胸(むね)がわるくなるさ【禿】いきなひざいろそ今

ので志んでしまへばいゝ【藤】あまり酒がすぎたから鼠(ねずみ)をとらうよりふざけよりするからモウいゝぞ猫がすがよろう

【若】ホンニきりハゑひよふさ善(とぢ)いろまなりましさ サアくつれてまゐりませう

【呉】崑崙奴太公房裡罷(クニロヲニノウキユイハニリイバア)（くろんぼうがつれてゆけ）【崑】多謝厚款(トウチニヘウクワン)（ごちそうにあづかりました）

感謝不盡列位安置(カニスヱフツツイニレツヲイヤニツウ)（まことにありがたくぞんじますおやすみなさい）【若】サアく一所(いつしよ)ニ行(ゆ)

ガラス使用

くろせんゆをとりて【李】崑崙奴這厠踉踉（くろんぼうがよろ〳〵して）蹌蹌的太了也好笑（りうさりうしい〳〵）【藤】くろんぼうで大笑ひをしたモウ何時さりト腰の指針（時計とみて）モウ九ッ半すぎ【呉】夜深了（まうふけさ）【李】我也倦了些（おれもさんろうしさ）【呉】角落頭房裡太瞌一覚也好（すみのへやへいつてひとねいきもようろう）さりさん【若】さて今ばんはいろ〳〵とおもしろいことをこましたo ちとおちか〳〵いろ〳〵ありがりまし【藤】よろしう〳〵【呉】太了太了（さあくいらは）【若】是子どもらん座しへおつれ申しや【青】おまさんつのでよそのところでおんとおつらくおやて行なんし【新】アイ【李】那里那里（どこだ〳〵）【禿】サアぼちなんし（さよう二人ながら寝床へひとりふとんのよこに寝ている座敷遊女あり）【新】客さんちよんと耳を出しなんし【藤】どれもいやアせさておんざ

云（いゝ）やな 新 イヽ王子まで申りて氣やみ子
ろでおきてゐるからおいらんハ後（のち）よさん
あわせて来らんさ（さ）とさそんなこといふめへ
さんユ我をうらんでそれろといひなんし
さ 藤 ソリヤアそれでいゝからちんと
火（ひ）をと一ツおこしてきておくりや 新 火がねく
とんアイ諸のでふ茶（ちや）やがらんできていせう

ろ 藤 ムヽそれも一ちんらんできてい
せう トきて例李謫夫ハ奧の座敷まで わらふ事にやきぶまをを腹ふあん笑る〜 兀（ロツ）（われ）
的（テツ）昆（クン）蟲（チヨンニユウ）猶雙（シヤンフイ）飛（ホン）鳳（デ）蝶（シヤンヒヤア）上下（フ）不（シツ）失（ケウ）偶（ツアイ）才（マウ）貌（むしけらもつがひそろへねあげえのてふ〳〵とてか）
相（スヤン）攜（ヒイ）倶（キユイ）有（ユウ）情（ツイン）（ふたりうれ）兎角（はなれへ） 禿 若さんく何の孫
おいらんの客（きやく）人（じん）ぐさんそれからニヤシツウ
ニヤシツウと云（いゝ）なんしたが孫ませぬ
ちきさ夢（こく）をとして何かわろせんせさが何

ガラス使用

のうすゞろちよろく恐（おそ）なんし 藤 ムヽそ

ちやアおいらんを呼（よ）べといふすゞ 禿 アレ

お聞（きゝ）なんし何ういふぞ大きな声（こゑ）で 藤

ドレ〽蝶（テエ）也（イ）亦（イ）何（ホウ）知（ツウ）菜（サイ）有（ユウ）味（ウイ）鳴（ウ）呼（フウ）俺（カン）不（フツ）

知（ツウ）趣（ツユイ）他（タア）没（モツ）深（シン）情（ツイン） 藤 ムヽおりやアしんろ

ちつとりきゝさてとうしよのざいかふかや

つの 禿 うろちやうて気（き）そもいつのろく

藤 ムヽ 禿 おせゝらなんし（ト出て新造来り） 新

サアおあんなんし 藤 ありがたく 新 ヲモシ

それもどうりか唐人（とうじん）のゆうじよ 藤 十二

唐人でハカニキよふよ 新 ヲモシどふぞころ

ちつととういんとちよと抱してらんなんし

藤 ずいぶん〳〵 新 さんれゐなんしさ

りんハ何んとり遠（ちか）づいてゆく中うどねアレ

ガラス使用

とマアゆしへそくらんふんし 藤 アレもむ
つうしいのさダリぞのガレニぞのロンジ
ぞのサイナヒぞのとうて急（さうり）みやア
兰（あだ）へられめく 新 十二かんとうのとおし
ゑつてくんふんしいらそね書（かき）付（つけ）て
おんどおて来（き）てくんふんし 藤 おもく
きそて世ろう其（その）代（かは）りに手（て）めへに無心（むしん）

がいのきひくくれろう 新 ふまそく 藤
おいらんみかくして気（き）をせんてさせ
孫へう 新 アレそんちやアいや 藤 いふふ
まハ孫へおれがいのうさハ手めへざう
ら営へ入そく孫うさねへくりやァふう
孫へ 新 アレサモウよしふんし茶さんし
つぶりふアリ（おりくらうくとて） 梅 かろこふさんく

新 アイ 梅 宮へちよつとこさつしやい 新 アイ（ト立て行屏風の かまへてあへさしてゆく） 新 アノ書燈(ぶんどう)のうへ 梅 そんな

とりくへく 新 アイ（ト新造ハ知て行せん ぶんれあそうとうて内へ）（まあり夜着をとま ゑてぐるりと行り） 梅 ヨヤ此あつう夜着(よぎ)を

とさりさふ急るへし。何をそんなま

孫(まご)を立るへして挨拶(あいさつ)もしるへせん

藤 盗人(ぬすびと)たけ〴〵しい孫をとらへさ誤(ころ)れ

手めへの胸(むね)に何のあるぞ 梅 ナゼエけうち

がひよりどふも 藤 ヨクどふも云(い)わけ

何のあめく 梅 ナゼエ何のかのさ此中もな

毎月ソレアノ書ハ画踏(ゑぶみ)衣裳(いしやう)を稀ぶろふ

とゆふあぶらし 藤 ヨキヤアガレ画踏衣

裳ハアノ鬚(ひげ)むしやふさせるほうりど

かしそれで金銀(こんや)猩々緋(しやうじやうひ)をとらいてつり

出しゝ是程とめんと思ふとは志らく
猿へらくそれよくらんほめて 梅 よし
あれしそれぞみよんでそ何のきみくハ
なんでも猿へ多すみあいそつかし状
志らく切（きれ）て志あへ申さぜんてく志の
性（こゝろ）ふめしが言まが何ちがまなんさよつ
き合のあんのといふハ隣さりより合

町（まち）子抱りしろんるすでも出来さろう 藤
そんあしう寄（より）合（わい）町（まち）へいけバおれと長（ながう）
揄（さいか）ふしてつれ出して志まをふといふ
のう 梅 どふいふでかうふとりりやア
ぬしが邪（じや）んねんふ抱ぐ 藤 邪むぐうあん
アふゆうだろ女の心（こゝろ）ハ志れ猿へ 梅 むすぐらと云
ぐわらと引よせコレねしハ 藤 言（き）まが違（ちが）ふてそふかさ

【梅】アイ来がちがふさのさよくはなれ
てゐなんしねへがおなら窄(つぼさ)出さとの
長崎のとふふゐもおせんせうなれ共(ども)
かうして苦労(くろう)気兼(きがね)をして人の目
顔(かほ)をしのんで逢(あ)ふ中(あひ)じやアおせへせん
ソハテ実出さて来なら おむろさんとつよ
おゝさんの顔(かほ)をおもひつくかけして【藤】かう
してどふした【梅】話(はなし)なんしなれゝおさ
（ト指先のかへ知らうおなる）【藤】洒(じやれ)ぐ【新】こんちでおざんす
【梅】そんならいつそ出そんとした【藤】其折(そのをり)
てゐるのハなんざ【新】おいらんが先せん香(かう)
の匂(にほ)ひといふがりなんさかう下(しさ)の紙(かみ)ぶん
の蘭花香(らんくわかう)をおもていろてそろとすりうえ
てきんした【梅】唐人ハモウ猫(ねこ)とゝでも云(いふ)て

ガラス使用

いなんすら【新】十二色〻の乃男をかぶりて

ふとんの上にゐてゐなんしさ（われらもまとう　てらうちて）

【李】白日地等到幾時。娘子〻〻。擶檀婦

人那裏太公。娘子〻〻。呉哥〻〻【呉】

有何貴幹【李】擶檀那裏太公【呉】我也不知

【李】藤哥〻〻トある内ござりぬくそいりまかるたのりをふさけて【皆】

ホイ

跋

九州郭中丸五人に雲霧変知字の二人を加へて七人一座の間違ひをかしけも時にとりての滑稽なるらん其こんけハかうと鳥がなく東の人乃ちらしみ合せて嘯して実乃合の右著く羅八物さるふちまかれ

もろこしきらふ風土の風俗をなざんと小筆ならぬとはまんざら珍ぷんかん隅の耳に残りし事を申ハ丸山唯まろうれしとおもひ机に向ひしも方言に筆の誤これハ御さげすみもなるならと負おしみなる言訳なるちんかんと思ひくに出る事を鋸屑もいんでいよ

唐土乾隆五十
日本天明五年　乙巳初春
唐来参和

ガラス使用

208
特別
22

狂言鶯蛙集（きやうげんあうあしふ）　全二冊
此書ハ家々の狂歌の秀逸をあつめて

ムスコヒヤ　全一冊
此本ハけいせいのへいさきのいきぢ[illegible]らしくまことはくもなきこ

狂詩選諺解（きやうしせんげんかい）　全一冊
四方先生の作をくはしく註釈をなす

新美人合自筆鑑（しんびじんあはせじひつかゞみ）
彩色摺　美人画　傾城乃自筆をあつめて

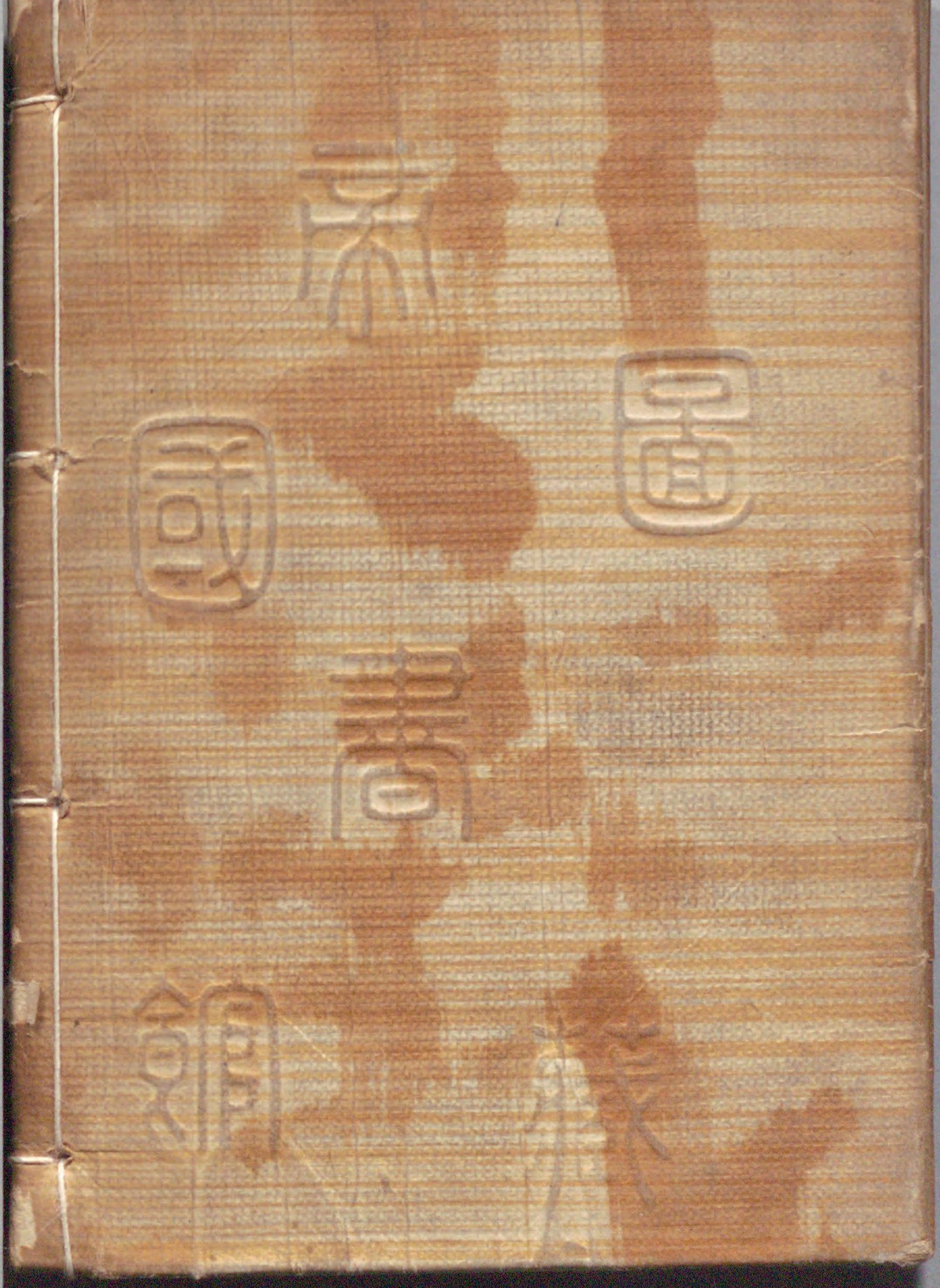
味唐珍解（みとうちんかい）　全一冊
唐土の君子日本の[illegible]乃あげやにておあそびとなります

新板　東海道狂歌名所雙六（とうかいどうきやうかめいしよすごろく）　全一冊
さいしんすり

江戸通油町
耕書堂　蔦屋重三郎梓

208
22

ガラス使用



帝國圖書館藏

ガラス使用